

4 貴重性評価の区分

(1) 評価の考え方

本レッドデータブックでは、2010年版の貴重性の評価区分（カテゴリー）を踏襲しつつ、分類群ごとに必要に応じて以下のとおり見直した。

- ① 維管束植物については、県内の個体群数に基づく定量的評価を新たに導入した。また、「野生絶滅」のカテゴリーを追加した。
- ② 蘚苔類については、生育量や消失を正確に把握することが困難で、「絶滅」と判定することが難しいため、これまでの県内での確認箇所数を基に、「希少な種」という観点で評価した。唯一の生育地が消失した種が認められたため、実態に合わせて「絶滅」のカテゴリーを追加した。
- ③ 藻類については、正確な分布状況の把握や絶滅リスクの判定が難しいことから、「保全すべき場所を特徴づける種」を貴重種として評価した。
- ④ 菌類については、生育量や消失を正確に把握することが困難で、「絶滅」と判定することが難しいため、これまでの県内での確認箇所数を基に、「希少な種」という観点で評価した。
- ⑤ 植物群落・個体群については、2010年版までの選定基準を廃止し、ア) 植物群落及び個体群の破壊・衰退要因となる開発行為や放置に伴う植物の侵入等の人為的影響、イ) 自然災害及び気候変動等の生育環境の変化、ウ) 外来種の侵入やニホンジカの増加に伴う影響による消滅の危険度、分布域、再生能力、種の多様性等貴重性の程度を考慮して評価した。なお、伐採により管理されている里山や、刈り取りにより維持されている草原、湿原、ため池、水路等において人の手が加わることにより良好な状態が保たれている場合は、自然植生と同様に貴重性の程度が高いものとして評価した。また、2010年版では複数箇所に分かれて分布しているものを1箇所にまとめて掲載していたが、実際の群落等のまとまりに合わせて分割した。

(2) カテゴリーの区分

○ 維管束植物

絶滅 (EX)	兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種。
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下又は自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。
A ランク	兵庫県内において絶滅の危機に瀕しており、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 IA 類に相当。県内個体群数 1~3 程度である種又は過去 10 年間で急激な個体数の減少が見られる種。
B ランク	兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 IB 類に相当。県内個体群数 4~10 程度である種。
C ランク	兵庫県内において存続基盤が脆弱な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 II 類と準絶滅危惧の一部に相当。県内個体群数 11~25 程度である種。
要調査種	本県での生育の実態について、近年の分布情報の不足や分類学的再検討が必要なため現時点では評価できないが、今後の調査によってはレッドリスト掲載となる可能性のある種。環境省レッドデータブックの情報不足に相当。

○ 蘚苔類

絶滅 (EX)	県内にかつては生育していたが、近年は現存が確認できない種。
A ランク	発生確認箇所数が非常に少なく、貴重性が極めて高いと考えられる種。
B ランク	発生確認箇所数が少なく、貴重性が高いと考えられる種。
C ランク	優れた自然環境の指標となる種などの、貴重種に準ずる種。
要調査種	現在の知見では貴重性の判断ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

○ 淡水藻類・海藻類

A ランク	生育場所が限定され、保全の必要性が高い数少ない重要な環境や、藻場などの生態系を特徴付ける種。
B ランク	生育場所が限定され、保全することが望まれる重要な環境や、藻場などの生態系を特徴付ける種。
C ランク	現在は重要性が高くないが、今後重要となる可能性が高い環境や、藻場などの生態系を特徴付ける種。
地域絶滅 危惧種 (LE)	過去に分布していたことが確認されているが、生育環境の悪化などにより、現在は分布が確認されないか、極めてまれにしか出現しない種 (Local Endangered Species)。
要調査種	本県での生育の実態がほとんど分からないことにより、現在の知見では貴重性の判断ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

○ 菌類

A ランク	発生確認箇所数が非常に少なく、貴重性が極めて高いと考えられる種。
B ランク	発生確認箇所数が少なく、貴重性が高いと考えられる種。
要注目種	優れた自然環境の指標となる種などの、貴重種に準ずる種。
要調査種	本県での生育の実態がほとんど分からないことにより、現在の知見では貴重性の判断ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

○ 植物群落・個体群

A ランク	植物群落及び個体群の破壊・衰退要因となる人為的影響、生育環境の変化、生物被害等により消滅の危機に瀕しているものや、規模的、質的に優れており貴重性の程度が最も高いもの。
B ランク	A ランクに準ずるもので、消滅の危険性が増大しているものや、貴重性の程度が高いもの。
C ランク	B ランクに準ずるものであり、今後消滅の危険性が高まるおそれのあるものや、貴重性の程度がやや高いもの。
要注目	消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの。